

Ⅱ 事業報告

1. 教職員を取り巻く環境の変化

- (1) 2015年度の理事および管理者就任は次のとおりである。峰田 将理事および標 宣男理事が常務理事に就任した。

聖学院大学では、姜尚中学長の退任に伴い清水正之教授が学長に就任し、副学長に平 修久教授が就任した。また、政治経済学部と政治政策学研究科については、阿久戸光晴教授の学部兼研究科長任期満了に伴い、平 修久教授が政治経済学部長代行兼政治政策学研究科長代行に就任した。また、事務部門組織では、法人を管轄する法人事務局と大学事務局に編成替えをし、両局を統括する事務総局長を置き田邊純一職員が就任した。また、法人事務局長に森野光生職員、大学事務局長代行に大井恵子職員が就任した。

- (2) 2015年度は2014年度に引き続き、厳しい財政状況であることに鑑みて高橋克典公認会計士を財務顧問に迎えた。また、人件費の抑制を継続して行った。

(人件費の抑制)

2014年度に引き続き次のことを実施した。

- ・理事報酬及び管理者の役職手当・職階手当（一部除く）を20%から50%の範囲での削減率でカットした。
- ・賞与支給月数は国家公務員及び東京都職員の基準月数を下回る実績とした。
- ・聖学院中学校高等学校の出張旅費にかかる手当額の削減。

2. 教育環境の整備

(1) 主な改修工事、購入等（1千万円以上）	(千円)
①聖学院大学 キャンパス整備関連事業	71,280
<内訳>学修状況記録のためのポートフォリオシステムの整備	28,728
地域共生広場「1 Cafe」整備	42,552
②聖学院中高 校舎棟壁面撥水塗装工事	54,972
③女子聖学院中高 PC教室機器更新、ネットワーク整備	22,618

(2) その他

聖学院大学

<GP* > *Good Practice (優れた取組) 略

2012年度以降、新潟大学を監事校とする「関越大学グループ」(17校)に属し、「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」を以下のテーマで活動をしている。

【テーマB：産学連携によるインターンシップ等の情報発信と専門人材育成】が2014年度から2年間にて行われている。2015年度の交付額については、文部科学省より当初の補助金額が大幅に減額され、各校に配分する補助金がなくなってしまうため、本学への交付額も0円となった。(2015年度をもって終了。)

<科学研究費補助金>

①代表者分（本学の教員が代表者の科学研究費補助金） 9 件

直接経費 8303.882 千円（※転入者分の繰越額 1,023.882 千円含む）

間接経費：2,184 千円

※学外研究分担者へ配分した直接経費及び間接経費の金額は含まない。

②分担者分（他大学の教員が代表者の科学研究費補助金） 7 件

直接経費 885 千円 間接経費：265.5 千円

合計 16 件 直接経費 9,188.882 千円 間接経費：2,449.5 千円

3. 聖学院各学校の主な事業

〔聖学院大学・聖学院大学大学院〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

障害のある学生に対してパソコンノートテイク、移動介助サポート等の支援を学生が有償で行う障害学生支援サポーター制度を導入した。2016年度より学習補助が実施できるように支援学生の技術を高め、ノウハウや質を維持するための学習会（パソコンノートテイク養成講座）を、筑波技術大学の先生を招いて3回開催することができた。

(2) 教育研究の整備

全ての大学に法的に義務づけられている「認証評価制度」に対して、大学基準協会への第2期認証評価を申請し、「大学基準」に適合していると認定され同協会より文部科学大臣に報告された。認証期間は2015年4月1日から2022年3月31日である。

(3) 環境基盤の整備

- ① 学生証・身分証の変更および学内ネットワーク環境の変更に伴い、図書館利用者用PCの設定および入館ゲート、印刷システムなどを変更した。
- ② 文部科学省「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」により、学生支援システム「UNIPA」上で動く、「IC出欠管理システム」および「マイステップ(eポートフォリオ)」を導入。全教室にIC出欠管理端末が設置され、2016年4月より、教員と学生双方が出欠状況を確認できるようになった。IC出欠管理の導入は、単に出欠管理だけが目的ではなく、授業出席率の向上や学修への動機付けを目的としており、むしろ学生の学修をサポートするためのツールとしての活用が期待される。また、UNIPAを通じて提出した課題、授業ノート・主体的学修記録などが「マイステップ」に自動的に蓄積され、学生は履修・成績情報、学修履歴等をUNIPA上で確認できるようになった。
- ③ 私立大学等改革総合支援事業のタイプ2「地域発展」への採択を受け、1号館地下学生ホールに「地域共生広場『1Cafe』」を整備した。同スペースには「サポートデスク」「地域交流ステージ」「地域交流ラウンジ」「メディアラウンジ」「世界交流ラウンジ」「子育てひろば」「展示コーナー」等が配置され、学生の学びと「地域交流キャンパス」としての大学と地域の相互理解と交流促進、地域社会の発展とグローバル化の促進などを目的としている。

(4) 国際連携

- ① アメリカから春学期に2名の交換留学生（ラグレインジ大学1名、ホープ大学1名）を受け入れた。秋学期にはホープ大学に交換留学生を派遣し、同大学と初めての学生交換が実現した。また、韓国湖西大学校からも1名秋学期に交換留学生を受け入れ、よい国際交流の機会を持つことができた。
- ② 短期語学研修をカナダ、オーストラリアで実施。韓国研修は中東呼吸器症候群（MERS）の影響を受け実施機関が研修を中止した。

(5) 学生・教職員等の活躍

- ① 全国大学ビブリオバトル 2015 に2名が本戦に出場し、うち1名は決勝まで進出した。
- ② 天皇賜杯第84回日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子三段跳決勝(4位)、第70回国民体育大会陸上競技 成年女子走高跳び決勝(15位)、2015日本学生個人陸上競技選手権大会 女子走高跳び決勝(6位)、第26回関東学生新人陸上競技選手権大会・関東学生リレー協議会 女子4×100mB決勝(4位) 女子100mB決勝(6位) 女子棒高跳決勝(準優勝) 女子4×400mB決勝(1位)、第88回関東陸上競技選手権大会兼第100回日本選手権予選会 女子走高跳び決勝(準優勝) 女子400mH決勝(準優勝) 女子4×400m決勝(準優勝)。

- ③ 2016年3月16日放映のNHK番組「首都圏ネットワーク」の「取材ファイル」において、東日本大震災発生から5年を迎える中、現在も活発な活動を展開している復興支援活動について、学生復興支援ボランティアチーム【SAVE】元代表こども心理学科4年生の岩手県釜石市における4年間の活動への取組みや成長の軌跡、現地の方々との交流などに焦点をあてた内容が放映された。

(6) その他

- ① 地域連携の一環として、2015年11月より桶川マイン内に新たに設置された文化交流スペース「OKEGAWA hon プラス+」にて、ハンドベルクワイアによるミニコンサートとビブリオバトルによる聖学院大学イベントを初めて開催した。
- ② 耐震強度の低い1号館の3分の2を解体し、強度の弱い部分に補強工事を行った。補強工事に関しては、文部科学省「防災機能等強化緊急特別推進事業」により補助金を獲得した。
- ③ 近隣自治体との連携事業として2011年度より毎年計5日実施される「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」を、本学においては「こどもがつくるまちミニ聖学院 あ・い・おタウン」と題して2015年6月13日・20日に実施した。1日目に街や社会の仕組みを学び、店の経営などを子ども自らが企画、2日目には実際の町づくりと運営を経験する授業を行った。小学校5・6年生54名の参加があり、大変好評であった。実施には「特定非営利活動法人こども文化ステーション」の協力をいただいた。
- ④ 上尾市との協定に基づき2014年度より実施している「あげお子ども大学」を、児童学科の協力を得て2015年11月28日に実施した。「もしもあなたが海外で生活することになったら？」と題して異文化間教育に関する講座、「オルガンの響き」と題してオルガンのしくみの講義が持たれ、上尾市在住の小学校5・6年生28名の参加があり、大変好評であった。
- ⑤ アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科では、6名の博士学位（課程博士4名、論文博士2名）を授与した。

〔聖学院大学附属みどり幼稚園〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

- ① 以前より月齢の早い3歳児の入園を希望する声があったが、今年度より「満3歳児保育」を開始した。初年度は未就園児クラスに通っていた子どもや在園児弟妹を対象として入園を許可した。
- ② この数年、子育て支援の一環として幼稚園における保育終了後の預かり保育を行ってきたが、さらに今年度からは早朝の預かりと共に、長期（夏期・冬期・春期）休暇期間中の預かり保育を実施した。
- ③ お父さんオープンディや自由参観など、気軽に幼稚園での園児の普段の様子を参観していただく機会を増やし、家庭と幼稚園との連携と円滑な相互意思疎通の強化を図るようにした。

(2) 教育研究の充実

- ① 今年度より園長特別補佐として富沢寿美子先生をお迎えし、経験豊富な先生の助言を多くいただくことができた。
- ② 特別に支援が必要な園児に関しては、毎日の報告会などで教師間の共通認識を大切にし、園全体で一貫した指導が行えるように配慮すると共に、専門家をお招きしての勉強会などを実施した。
- ③ さいたま・上尾キャンパス内にありチャペルを共用している聖学院教会との連携を強め、教員の学びの機会を多く設けるなどキリスト教保育の充実に努めている。

- (3) 環境基盤の整備
 - 広い園庭の整備のために土入れやベンチの増設、草刈りなどを実施した。
- (4) その他
 - ① 園児募集に向けて、0歳児以上を対象とする園庭開放、1歳児以上を対象とする親子で遊ぶ会、2歳児以上を対象とする未就園児親子クラスの充実を図り、スムーズに入園へ繋がるよう配慮した。
 - ② 本園の保育を十分に理解していただくため、自由見学会の実施やホームページ、ブログ、ポスター、チラシなどによる園の情報公開を積極的に進め、地域への浸透と遊びを中心とする保育の利点を広く知っていただくための活動を精力的に行った。

〔聖学院中学校高等学校〕

- (1) 記念事業
 - 110周年（2016年度）記念行事等への取り組みとして、記念誌、記念式典開催などの検討（担当者の配置、PTA・後援会との連携）を行った。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
 - ① 全ホームルーム教室、一部特別教室への電子黒板装置設置が完了した。
 - ② ICT教育の実施（教育方法、機材・施設等の整備）を行った。特に校内生徒用にWi-Fi設備を設置した。
- (3) 教育研究の充実
 - ① 授業研究週間の実施
 - ② 21世紀型教育の推進
 - ③ 帰国生サポートの研究実施、
 - ④ アクティブ・ラーニング授業の推進
 - ⑤ 21世紀型教育企画部門の新設
- (4) 教育研究の整備
 - 21世紀型教育、アクティブ・ラーニングを推進するための教育研修会を多数実施した。
- (5) 環境基盤の整備
 - ① 建築以来16年が経過する校舎の随時修繕・補修工事を実施した。
 - ② 120周年（2026年）記念事業として、中学棟および体育館の建設計画を継続検討している。
 - ③ 上記建築準備委員会の検討を開始した。
- (6) 国際連携
 - ① 前年度に引き続き、アメリカ・ハワイ、オックスフォードの提携校へ留学生（高II生徒3名1年間）を送った。
 - ② タイの研修旅行を通じて、国際ボランティアを考えた。
- (7) その他
 - ① 海外日本人学校生の取り込みを図るため、入試広報部で海外における説明会を実施した。（シンガポール、香港、カナダ等）
 - ② 2016年3月より英語、中国語の補習授業を開始。

〔女子聖学院中学校高等学校〕

- (1) 創立110周年記念事業
 - ① 「オルセースクールミュージアム」
 - 2015年5月17日～5月31日、クローソンホールにて「オルセースクールミュージアム」を開催した。オルセー美術館公認「リマスターアート（高精細レプ

リカ)」32点を展示し、多くの人々が身近にアートと触れ合える新しいスタイルのエデュテイメント・ミュージアムを運営した。保護者のご協力(ボランティア247名)に感謝。来場者総計4092名。生徒による絵画解説ボランティア103名。

②「教育講演会」

2015年7月20日、チャペルにてルース・ジャーマン・白石氏を講師としてお迎えし講演会を開催した。講演題『世界に誇れる日本の美点～日本的なグローバル化をめざして～』。また、オランダで若手ピアニストとして活躍している清水若菜氏(61回生)のピアノ演奏、秋本奈美氏(46回生)のオルガン演奏が行われた。本校が柱の一つとしている国際理解教育の方向性を指し示す会となった。参加者166名。

③「記念式典」

2015年10月31日、チャペルにて記念式典を開催した。中高ともに講演者として阿久戸光晴理事長・院長による記念講演のときを持った。講演題『21世紀の女子キリスト教教育』。

④「記念品」

「クリアホルダー(チャペルの写真)」、「クリアホルダー(パイプオルガンの写真)」、「校章シール」の3点とした。

(2) 新たなる教育事業への取り組み

① 国際理解教育プログラムのさらなる拡充

- ・学年必修の集中英語プログラム(中1自己紹介、中2劇づくり、中3海外留学疑似体験、高I日本紹介、高II留学生とのテーマに基づくディスカッション)を初めて実施した。
- ・立教英国学院への中3の1年間留学を初めて実施した。3名参加。
- ・ターム留学(オーストラリアのミッションスクールであるフェアホルムカレッジ)に高I・高IIの5名が参加した。
- ・ホームステイ(アメリカのランカスター)に高Iが26名参加した。
- ・セブ島英語研修を中3・高I・高II対象に初めて実施した。13名参加。

② ラーニングセンターを設置

- ・9月より中3・高I・高IIを対象に、午後7時まで学校で個別学習に取り組むための環境を整備した。次年度はさらに拡張し将来的には本校の学習のための総合センターと進化させたい。

(3) 教育研究の充実

アクティブ・ラーニングについての校内研修会をもち、次年度より全教職員が担当する授業で実践するための足がかりとした。

(4) 環境基盤の整備

- ・パソコン教室の機器更新を実施した。
- ・校内の無線LAN環境を整備した。
- ・防災の一環として、教職員による自家発電訓練を実施した。

(5) 生徒・教職員等の活躍

- ① 中学ディベート部
 - ・全国大会中学の部 準優勝
 - ・北区子どもかがやき顕彰 北区みらい賞 4名
- ② 高校演劇部
 - ・城東地区大会 奨励賞
 - ・城東地区冬季合同発表会 生徒審査賞
 - ・都高等学校演劇研究会 優秀賞
- ③ 中学演劇部
 - ・北区中学校連合学芸会 優秀賞

- ④ 中学吹奏楽部
 - ・都中学校吹奏楽コンクール A組金賞
 - ・都中学校アンサンブルコンテスト
 - ・クラリネット七重奏 A部門金賞
 - ・金管八重奏 B部門金賞
 - ⑤ 高校吹奏楽部
 - ・都高等学校吹奏楽コンクール A組銀賞
 - ・都高等学校アンサンブルコンテスト
 - ・木管八重奏 金賞
 - ・金管八重奏 銀賞
 - ⑥ 高校バドミントン部
 - ・東京バドミントンクラブ New Year Cup 2016
 - ・女子ダブルス二部 優勝(高2)
 - ⑦ 中学バドミントン部
 - ・東京バドミントンクラブ New Year Cup 2016
 - ・女子シングルス三部 第3位(中3)
 - ⑧ 個人の表彰(生徒)
 - ・文京区少年剣道大会 中学生女子の部 優勝(中1)
 - ・国際ジュニア音楽コンクール ピアノE部門 第3位(中2)
 - ・ヨーロッパ・ジュニアピアノコンクール 東京地区大会 中学B部門 銅賞(中1)
 - ・東京ジュニア体操選手権大会 ボール 第3位(中1)
 - ・立川市新体操競技会 チーム対抗フープ第1位・個人フープ第5位(中1)
 - ・全日本新体操クラブ団体選手権 ジュニアの部 第5位(中1)
 - ・藤村カップ 中学生フープ 第4位(中1)
 - ・都中学校新体操学年別新人大会 1年ロープ 第5位(中1)
 - ・練馬区新体操連盟アザレアカップ 団体ジュニア 第2位(中1)
 - ・礼和流柳心館宗家杯演舞大会 茶帯(高校・一般)優勝(高2)、組手女子(高校・一般)準優勝(高2)
 - ・全日本書初め大覧覧会 日本武道館賞 2名(高1)、1名(高2)
 - ・聖学院大学高校生スピーチコンテスト 奨励賞(高3)
 - ⑨ 個人の表彰(教員)
 - ・全国教室ディベート連盟 最優秀指導者賞
- (6) その他
- 盛夏服用カーディガンの着用を始めた。

〔聖学院小学校〕

- (1) 記念事業

創立50周年記念事業として開始した新校舎建築が2014年12月に完成し、2015年1月より使用を開始したが、借入金返済が続くため、引き続き募金活動に力を注いでいる。
- (2) 新たなる教育事業への取り組み
 - ① 以前より行っている子どもたちが話し合ったり、教えあったり、共同で作業を進める授業形態をより充実したものにするため、特に学びを共有するため有効なツールであるiPadを4年生以上に一人1台導入した。また3年生以下の児童も学校が所有する50台のiPadを貸与し、様々な学習活動で使っている。
 - ② 1年生から6年生までの縦割りグループで食する給食(本校ではスクールランチという)を週2回から3回実施している。
- (3) 教育研究の充実

iPadを使用した授業の研修を年3回実施した。
- (4) 環境基盤の整備

新しい教務システムを導入した。

(5) 国際連携

- ① 2015年7月22日から30日までオーストラリアのクリーンランドにおけるホームステイに5年生7名、6年生7名の計14名が参加して行われた。なお、2015年度より受け入れ校がMountain Creek State Schoolに変わった。
- ② 2015年4月27日から5月8日に行われたSAINTS（聖学院アトランタ国際学校）短期留学に5年生男子1名が母親と共に参加した。

(6) その他

- ① 3年ぶりに聖学院小学校校庭において運動会を行った。
- ② 3年ぶりに聖学院幼稚園と同一敷地内で聖学院フェアを行った。
- ③ ダニエル・ゲーデ氏が率いるウイーン五重奏団コンサートが2015年11月13日に聖学院小学校チャペルにおいて行われた。

〔聖学院幼稚園〕

(1) 新たなる教育事業への取り組み

従来からの英語（キッズ・イングリッシュ）に加え、フラワーアレンジメント教室、体操教室を始め、課外の保育活動の充実を図った。

(2) その他

- ① 3年ぶりに聖学院小学校校庭において運動会を行った。
- ② 3年ぶりに聖学院小学校と同一敷地内で聖学院フェアを行った。
- ③ 在園生の祖父母であるベアンテ・ボーマン夫妻によるチェロコンサートを開催した。

〔聖学院アトランタ国際学校〕

(1) 記念事業

25周年記念として様々な行事・活動を年間を通して行った。

- ① 総領事による日米関係のレクチャー
- ② 児童による英作文「25年後の自分」や25周年記念ポスターの作成
- ③ リサイクル素材を利用した25周年記念エコフレンドリー運動場のためのフェンドレージング
- ④ ネパールの子ども達に寄付するため25セントを集めるサービスラーニングプロジェクト等

(2) 新たなる教育事業への取り組み

- ① アフタースクールの充実：日本語を話す教員が加わり、午後6時まで英語と日本語を使って過ごすことができる体制となった。
- ② ランチデー（学校給食だが参加はオプション）：親以外の人を作ったものを食する習慣を育て、共働き家庭を助けることを目的として、週1日から週2日に増やした。

(3) 教育研究の充実

- ① 2015年度は「世界は一つ」がテーマで、世界についての質問が毎週のように貼りだされ、児童が自主的に学びに参加した。
- ② 幼稚部3歳児・4歳児は特に縦割り合同の時間を毎日導入した。

(4) 環境基盤の整備

- ① 環境教育の一環として、エコフレンドリー運動場が完成し安全性の高い運動場で体育ができるようになった。
- ② IT環境の充実のため、書画カメラ2台、タブレット13台、プロジェクター1台を購入した。

(5) 国際連携

- ① 2015 年度も様々なサービスラーニングが行われたが、フィリピンサンダルプロジェクトに 660 足のサンダルをプレゼントすることができた。
- ② ガーナの小学校とスカイプを行った。カザフスタンからは将来は日本大使になりたいという高校生や、キューバからはゲストスピーカーが国の紹介に来てくださった。
- ③ 2015 年 6 月から韓国の教会が学校の講堂を使用して礼拝をするようになった。
- ④ 日本の聖学院小学校児童および聖学院大学学生が、それぞれ約 2 週間のセインツ体験プログラムに参加した。

(6) 生徒・教職員等の活躍

- ① 国際俳句コンクール入賞
- ② 前年度に引き続き今年度も、家庭に全く日本語を話す方がいないナイジェリア出身の小学生が日本語能力試験三級に合格した。
- ③ 漢検：1 年から 6 年まで全学年、漢検合格者が出た。
- ④ ジョージア少年合唱団：4 年生から 6 年生 1 名ずつ合計 3 名の男子がジョージア少年合唱団のフェスティバルに参加した。

(7) その他

2015 年度から外務省の助成金を受けられるようになった。

〔法人〕

(1) A S F 推進委員会・総会

聖学院小学校チャペルにて、第 29 回 A S F 推進委員会・総会が開催された。2014 年度募金実績報告に続いて、高額ご寄付をいただいた方々へ感謝の意を表した。村山順吉小学校校長より聖学院小学校新校舎建築に対する募金への感謝の言葉が述べられた後、2015 年度募金目標に向けて各校からプレゼンテーションが行われた。

(2) ウイリアム G. クレーラ先生お別れ会

女子聖学院短期大学学長及びみどり幼稚園園長など聖学院諸学校で奉職いただいたウイリアム G. クレーラ先生が 2015 年 9 月 26 日に召天され、2016 年 1 月 11 日に聖学院大学チャペルおよびエルピス食堂にて追悼礼拝および茶話会が行われた。